



# まらきら

第50号

今、ひとりひとりが...

「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「まらきら」と輝いていける21世紀でありたい...

11月12日~25日は

**「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間です!**  
**「作ろう!知ろう!パープルリボン!」にご参加ください!**



「パープルリボン」は女性に対する暴力根絶のシンボルです。  
暴力根絶の願いを込めて、ハイトピア伊賀 1 階のボードに紫色のリボンを貼って、  
みんなで大きな“パープルリボン”を完成させましょう。

DV（配偶者等からの暴力）を受けている人がまず認識すべきなのは、「自分は暴力を受けている犠牲者である」と自覚することです。長年にわたって DV 被害にあっている場合や、社会との接点が少ない場合などには、暴力を振るわれていても「自分が、いたらないから殴られる」と考えてしまいがちです。また、「暴力を振るったあと、相手は泣いて反省していた。もうきっと暴力は振るわないだろう」と認識が甘く、DV がどんどん過激になってしまうケースもあります。「暴力を振るったあとのやさしい行動」は、DV のサイクルに当てはまる行動ですが、この「やさしさ」自体が、DV を繰り返すための典型的な行動だと気がついていないケースも多いのです。まずは、「悪いのは、暴力を振るう相手で、被害を受けているのは自分である」と、認識してください。DV 被害にあっていることを認めることで、「暴力に耐えることは間違っている」と気がつけるはずです。

相談機関	電話番号	受付時間
伊賀市役所こども未来課 (女性相談)	22-9609	月～金 9:00～16:00 (祝日除く)
三重県女性相談所 (三重県配偶者暴力相談支援センター)	059-231-5600	月・水・金 9:00～17:00 火・木 9:00～20:00
三重県男女共同参画センター 「フレンテみえ」	059-233-1133	火～日 9:00～12:00 火・金・土・日 13:00～15:30 木 17:00～19:00

編集・発行

伊賀市人権生活環境部人権政策課  
〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地  
Tel.(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666

編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「まらきら」  
編集スタッフ 岡 久美子・竹山 佐代子・的場 裕子  
宮田 美智子・三山 佳代子

(平成 30 年 11 月 15 日発行)



日本で最大級とも言われるこの会議、35回目を迎えた今年、城下町の風情が残り日本文化が美しく息づく観光地、金沢で開催され参加させていただきました。

「たたえようこれまでの道・彩ろう未知なる明日」と掲げられたテーマには、先人のこれまで全ての活動や取り組みを顧み、継承していくと共に、希望の持てる未来を次世代に残すため、引き続き残された課題、新たな課題について考えよう！との思いが込められており、全プログラムのそこかしこに、その意図を感じられる会議でした。

オープニングで披露された、女性ばかりの「素囃子」に感動！分科会では、急速に進む国際化に、伝統を守りながら多様性に対応している金沢の問題を知り、また記念講演では、女人禁制のしきたりがある能楽の道を究め、無形文化財認定までも手にした女性能楽師が語った苦悩の半生には、大きな感動と学びをいただきました。

来年は栃木県佐野市で開催します。皆さん是非自分の目で！

(伊賀市男女共同参画ネットワーク会議副会長 川口恵美子)



歴史都市金沢での日本女性会議第35回大会、「たたえようこれまでの道、彩ろう未知なる明日」というテーマのもと、継承してきた伝統文化を重んじながらも、多様な文化と共生していくための暮らし方も学べた大会でした。

初日は第2分科会に参加し、金沢市の人口動態から見た国際化の状況や、外国人留学生が多い中、直面する多種多様な問題を金沢大学留学生支援地域アドバイザーのヒクマバルベイドさんが、イスラム教の生活様式への理解について話され、

「生涯日本で暮らしたいですか？」の質問に「日本での生活が長く、母国での生活が大変と感じるようになり、日本で生涯暮らしたい」と話されました。同じ人として言語の違いを気にせず、気軽に直接的なコミュニケーションができれば、課題の解決も早いのでは？と日本人の遠回りな対応にもどかしさもあるようでした。

二日目は室生流女性能楽師の松田若子さんが男性主導の能楽界における苦悩と奮闘を語られ、父から「女性であることを忘れ、男性になり女性を演じるようにしなさい」との教えに、女性という自己を通り越した上で自分らしさを追求し、女性ならではのしなやかな強さに達成感が見えました。また、総合内科専門医のおおたわ史絵さんは、女性医師としての障壁と向き合って、「自分の限界を決めているのは自分で、無理かなと諦めることがストッパーをかけている」と今も尚、諦めない生き方をされていました。今大会の女性が直面する様々な困難が解決された「フェアネスの高い社会」の構築にむけた取り組みを伊賀市での実践に役立てたいものです。

(伊賀市男女共同参画ネットワーク会議会長 今井 和子)



## ○アンコンシャス バイアスとは

アンコンシャス バイアスとは、日本語だと「無意識の偏見」と直訳され、今までの経験や自分が育った環境などから、気づかないうちに持つようになった物事への見方や考え方のことを指します。考える前に無意識に生じる思考プロセスの1つですので、意識的にコントロールすることは難しいとされています。例として“若者はフットワークが軽い”“高齢者はパソコンが苦手”“子育て中の女性社員に泊りがけの出張はできない”などの思い込みや固定観念が挙げられます。これらは時として、差別する意図がなくても、結果的に他の人の自由な発言や活躍を妨げる要因になり得ると言われています。

例えば、能力があり「もっと仕事がしたい」と考えている子育て中の女性社員に対し、上司が「子育て中の女性に大きな仕事を任せるのは申し訳ない」という意識の下、その女性の仕事

を減らすよう配慮することは、その能力を発揮する機会を奪い、意欲をそいでしまう可能性があるのです。

女性社員の働きぶりを、高く評価している男性上司はたくさんいます。そのうえで、女性に対する心づかいから、大きな仕事を任せることに躊躇してしまう実情もあるようです。

ダイバーシティが進めば進むほど、コミュニケーションは多様化していきます。思い込みによって可能性が閉ざされてしまうことは、本人にとっても、組織にとっても、社会にとってももったいないことです。誰もがいきいきと働くことができる社会の実現に向けて、まずはあなたのまわりでも、今まで気づいていなかった「偏見」を意識してみませんか。

(男女共同参画係)



伊賀市男女共同参画ネットワーク会議  
(いきいきネット) 会員紹介

## 伊賀市子育てインストラクター スマイル母 (ママ)

平成5年、県主催の子育てインストラクター養成講座を修了したメンバーで、平成6年に“スマイル母 (ママ)”を結成しました。

子育て中のお母さんに寄り添い、気軽に子育てのことについて話ができ、いつも明るい笑顔のママでいてほしいと願って活動をしています。

現在、新メンバーを加えて11名で子育て支援をしています。

具体的な活動内容は、ハイトピア伊賀でのふれあい広場、各支所の子育て支援、地域からの子育てサロンの支援、そして各種行事での託児です。

内容は、ふれあい体操・手あそび・読み聞かせ(絵本、大型絵本、紙芝居)・エプロンシアター・パネルシアターそして、手づくりおもちゃやお昼寝アートなどで、親子で楽しい時間を過ごしています。

最近は、核家族等で子育てを1人でかかわっている人が多くみられます。子育ての心配なことに相談にのり、子どもたちと楽しいひと時を過ごしていきたいと思っています。

